

詠む広場

毎日俳壇

片山由美子選

兩戸繰る音に山茶花散りあたり

奈良 高尾山 昭

△評▽兩戸を繰る音によってこのうのはもちろん誇張だが、散り始めるたややく散るのころにサザンカらしさがとろえられている。菊花展今年最後と出品す

福岡 手島喜美江

△評▽長年、菊花展に出品してきた人の心境がよく分かる。決心したことの一抹のまびきも。街頭に第九のポスター冬に入る

東久留米市 矢作 輝

雷鳴の後登み渡る十三夜

水戸市 塩澤 昭

こんなにも小さき草とて実をつけて

福岡市 清水 葵子

よみ笑ふベビーカーの子秋日和

いなべ市 新美 康子

青年に席譲られて暖房車

稲沢市 永翁 明代

大ぶりの朱塗りの櫛のきのこ汁

土岐市 水野 雅子

なまご壁残の街並冬来る

野田市 押江 成行

ふり仰ぐ銀木庫の香なりけり

広島市 谷口 一好

小川 軽舟選

父母若し虫籠の子を先立てて

京都市 根来美知代

△評▽スラムシを買ってもらったのか。大事そうに抱えて親の前を歩く。読者それぞれの昔を思い出すさける情景だ。

葛城市 上島 博

△評▽いつも笑わせてくれたあの姿とともに、コロナウイルスにおびえた日々がよみがえる。秋澄むや奥に奥ある瀬戸物屋

秋田市 神成 石男

洗ふ手の不意の白さや秋の水

秋田市 鈴木華奈子

こんなにも菊に埋もれ汝の逝く

大阪市 白濱 素子

電話待つ半端時間に毛糸編む

東京 木内百合子

朝寒や日記に滲む青インク

津市 渡邊 健治

立冬やバイクの音の走り去る

相模原市 はやし 央

目止める伊賀の土鍋や今年米

広島市 村越 縁

コスモスや底の減りたる革の靴

前橋市 山本 亨

西村 和子選

鯛雲棚田を巡る霊柩車

福知山市 森井 敏行

△評▽空に広がるいわし雲から地上の棚田へ視点が移ってゆく。亡き人の愛着の光景なのだろう。読み手の心も巡ってゆく。

千葉 阿部 尚子

△評▽いつも身に着けていた遺愛の品が、樋口一葉の生涯を象徴する。季語が語っている。何処をどう来ればこれほど草じらみ

岸和田市 妙中 正

水の秋町に七つの揚水場

大阪 池田 壽夫

寒村と言はるるのじり麦を撒く

羽生市 小菅 純一

冬来たる風の尖りし粟田口

東大阪市 三村まゆみ

置き去りの三輪車にも銀杏降る

神戸市 小林 照明

門を掛けし馬小屋田の声

青梅市 松野 英昌

クラクション鳴らして植秋の野へ

鹿嶋市 津田 正義

念願の信州そばの胡桃だれ

川口市 瀧内 友子

井上 康明選

初冬や秘仏のままの歓喜天

越谷市 安居院半樹

△評▽歓喜天は仏を守る神、男女の神が抱擁する姿である。歓喜天が秘仏のまま堂の奥に閉ざされている様に、冬の到来を思う。親族が顔揃へたる花八手

東京 石川 黎

△評▽周忌など冬の法要を想像した。珍しく親族が集まった寺に八つ手の白い花が咲いている。くれなるの人夢ひとつ雨に濡れ

相模原市 はやし 央

遠方に鳴り冬雷の近づく

富士宮市 渡邊 春生

神渡し今朝一便の立ちにけり

横浜市 斎藤 山葉

玉砂利は子の靴に鳴り七五三

小田原市 林 梢

網の目のごとき坑道秋の闇

弥富市 富田 範保

火のなかに空蟬つかぶ焚火かな

姫路市 板谷 繁

夜を徹し替へる枕木息白し

長崎市 鶴田 鴻己

葱抱へざんばら髪の手相撲取

川越市 益子さとし

うたは奏でる さりげなさのなかに 染野太朗

今回は久々淡墨子歌集『非在の星』から何首が読む。脳下しのために書きゆく鬱、鬱はもう書かずとも長し。自らの老いを意識している歌。「脳下し」という語もすっかり日常語になった。複雑な漢字を書いている。「鬱」のあとに「字空まがあるから」「鬱」鬱という字はこれからも身近なものだ、でも鬱はもう自分に必要ない」といつかたに思う。これから先、鬱という病名はなげかせ、気分がふさふさしたまま当然あるだろうし、鬱に限らず植物にも親しく触れてくたろうけれど、若さや強さ、虚勢といったものの象徴でもある鬱は、今後自分の人生にさほど必要はない、と見通しているわけだ。たった三つの漢字から、ユーモアとともに、作者の生活の興行きがうすうすと聞えてくる。あ、何年か生きて朝と夕に五穀ついでに雀門なり。朝ついでにけりかえされる同じ光景。それを眺めながら、永遠にいつかではなくむしろ人生の終わりを意識している。不意の思いがやけにリアルだ。自分の死後も同じ光景が続くとして、訪れる雀は、今そこにいる雀とはもちろん異なるだろう。さりげないつづまきの歌だが、人生の長い時間や思いが重なりあって、読者にさまざまな思考を促し得る。生き残り泣くのはわたし、と決めており一夫一婦の劇の終りは。夫より長く生きるのだと宣言し、夫婦という制度を劇たと言いつける確信とおかしみ。重厚かつ軽やか、風通しのよい歌集だった。(そのめ・たろう「歌人」)